

## 1. 取組を実施した背景・課題

- ◇品質管理技術が船団により異なり、水揚げされる魚の鮮度にバラツキが発生
- ◇人員不足による産地の選別処理能力低下
- ◇水揚げ動向に左右されるプロダクトアウト型の商品開発
- ◇松浦地区で水揚げされる高品質な魚の魅力が消費者に伝わっていない

## 2. 事業の目的

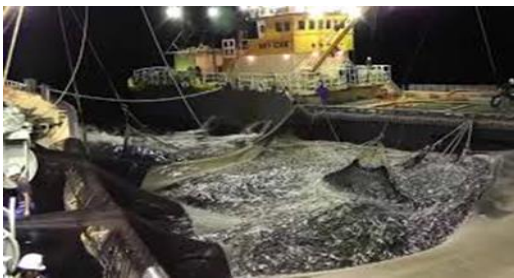
- 品質管理技術の体系化、マニュアル化の推進
- 効率的な選別ラインの導入や自動化による省力化・省人化
- マーケットインの考え方に基づいた商品開発
- 高品質な水産加工品等の産直販売の実現

## 3. 協議会構成員の概要

協議会構成員	生産	■日本遠洋旋網漁業協同組合
	加工流通	■西日本魚市株式会社
	販売	■生活協同組合連合会コープ九州事業連合
外部委託先	調査分析	■(一社)海洋水産システム協会 ■(公財)ながさき地域政策研究所

## 4. 初年度の取組と成果

### (1) 品質管理技術の体系化



- まき網漁船の協力の下、漁業～水揚げ～販売の工程における**品質管理に関する調査を実施**
- 漁獲物の品質管理上**問題になりやすいポイントを特定**
- 当該地区で水揚げされる、まき網漁獲物全体の品質管理技術向上に向けた**指針を作成**

### (2) 効率的な選別ラインの検討



- 現状の選別ラインにおける**問題点・課題を抽出**
- 課題を解決し、**効率的な選別**を可能にする新選別台の形状・設置方法・人員配置等の検討や、実証機器による検証を実施
- AIによる画像認識技術を用いた新たな選別手法の導入に向けた検討を実施

### (3) マーケットイン型の商品開発



- COOP九州との連携により、一般消費者を対象としたマーケティング調査を実施
- マーケティング調査の結果を反映させた新商品の開発に向けた検討を実施

## 5. 今後の課題と対応方策

- ①**選別ライン導入に向けた実質的な検討** ⇨ 人材不足等の現状の問題点を改善するため、効率的な選別を可能とする選別ラインの実証
- ②**産地と消費者の交流促進による新商品の開発** ⇨ 産地と消費者の交流を促進し、お互いのニーズを引き続き共有。消費者ニーズに合わせたマーケットイン型の商品開発を実施